

本年度の重点目標		新しい「時習館スピリッツ」と「時習館の学びの物語」を確立し継承するとともに、国際バカロレアを着実に導入する。	
担当	重点目標	具体的方策	評価基準
総務部	(1) 生徒・職員の防災意識をより高める。 (2) 附属中学校開校にともない変化する避難経路等を職員・生徒に周知し、速やかな非難ができるように意識を高める。 (3) 持ち出しボックス等の充実を図り、必要物品の計画的な確保を行う。	(1) 生徒・職員に「防災・減災だより」を発行し防災意識の向上を図る。 (2) 地震避難、火災避難の訓練を実施し、生徒・職員に避難経路を周知したり避難方法を考えたりさせ、意見を集約してよりよい学校安全マニュアルに改定する。 (3) 西館や北倉庫に置いてある防災備蓄を整理し、不要なものを処分するとともに必要な物品を確保して備蓄や持ち出しボックスの充実を図る。	(1) 生徒・職員が「防災・減災だより」をもとに、防災について興味・関心を持ったか。 (2) 生徒・職員の意見を反映して学校安全マニュアルを改定できたか。 (3) 西館・北倉庫の整理ができ、持ち出しボックスの充実ができたか。
教務部	(1) 中高一貫、全日制単位制における教育活動の成果を適切に振り返りながら、教育目標の実現に努める。 (2) 国際バカロレアのディプロマプログラム開始に向け、教科会やDP準備委員会と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成する。 (3) 中学生、高校生それぞれにとって利用しやすい図書館の整備を進めるとともに、来館者を増やして活気ある図書館にする。	(1) 教科会において、教育活動の振り返りと改善のための検討の機会を設ける。 (2) 他校の実例を踏まえながら、各教科と密に連携し、教育課程の編成を行う。 (3) 生徒の興味を引く本の選定や、図書委員の活動、図書館の展示などを工夫する。	(1) 教育活動の成果を振り返り、改善に役立てることができたか。 (2) 各教科やDP準備委員会と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成できたか。 (3) 図書館の来館者や、貸出冊数が増加したか。特に、中学生に頻繁に利用してもらえたか。
生徒指導部	(1) 品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 (2) 交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 (3) いじめなどの問題行動の未然防止や早期発見に努める。 (4) 学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	(1) 身だしなみ指導、立ち番指導などを通して、生徒の意識の向上を図る。 (2) 生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 (3) 生活実態調査などを有効に活用し、いじめなどの問題行動の未然防止や早期発見に努める。また、問題を抱えている生徒への理解を深める。 (4) 行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア活動の紹介を行い、生徒が積極的に参加できる環境を整備する。	(1) 生徒が品位ある身だしなみを保ち、各場面で時習生らしく責任ある行動ができたか。 (2) 生徒の交通安全に対する意識が向上し、交通マナーを守ることができたか。 (3) 全職員が情報を共有し、いじめなどの問題行動の未然防止や早期発見ができたか。 (4) 学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に参加できたか。
進路指導部	1年 自己を見つめ将来どうなりたいかを考えさせ、最高峰にこだわり進路目標を築き上げさせる。 2年 低学年時の目標を持続させ、中励み期として意欲的に学習に取り組ませる。 3年 自己のあるべき姿を見つめつつ、最後まで挑戦する勇気を持たせる。	すべての学年で、積極的戦略的に進路情報を発信する。 1年 個々の特性や興味・関心を把握し、自己理解を深めるための面談等を行う。卒業生の講話や上級生との関わりを通して将来の可能性や最高峰を目指す姿勢を育成する。 2年 進路行事（進路講演会、学部・学科説明会）や担任面談などを通して、具体的な自身の将来像を考えさせ、より明確な進路目標を設定させる。文理選択や志望分野に応じた情報提供を充実させ、目標を持続させる支援を行う。 3年 設定した進路目標の具現化のため、最後まで粘り強く志望校に挑戦し続けるよう指導する。担任、進路指導部が連携し、精神面を含めたきめ細かな支援を行い、第1志望を貫き通す力を養う。	1年 自身の将来を見通した高い進路目標を設定させることができたか。 2年 より明確な進路希望を設定・持続させ、意欲的に学習等に取り組ませることができたか。 3年 自ら進路目標を設定して学習に取り組み、志望を貫き通す姿勢を保持させることができたか。
保健部	(1) 健康と安全に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事など)の事故や怪我の減少を目指す。 (2) 各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の主体的な活動の促進に努める。 (3) 感染症の予防や保健衛生、美化・緑化などの環境衛生活動の推進を図る。	(1) 安全点検の徹底と修繕の迅速な対応を目指し、予測可能な事故や怪我の予防策を周知させる。 (2) 定期開催の各委員会を生徒主導の委員会となることを目指し、意義や役割、責務を理解させる。 (3) 学校に関わる全ての職員・生徒が安心・安全な活動が送れるような環境づくりを目指す。	(1) 事故や怪我の実態を把握すると共にその原因を究明し、減少を図ることができたか。 (2) 各委員会を定期的かつ適切な時期に開催し、生徒の主体的な活動を促すことができたか。 (3) 感染症予防対策、校内美化・緑化活動の実態を把握し、環境衛生の改善を図ることができたか。

担当	重点目標	具体的方策	評価基準
IB探究部	(1) 第IV期SSH事業の目標である「総合知の獲得」を目指した教育活動の具体的方策を、全職員体制で検討、実践する。 (2) SSH・あいちリーダーイングスクール(以下「あいちLS」とする)事業の成果普及のための広報活動を充実させる。	(1) 2年生の「総合的な探究の時間」において、各教員の専門分野におけるゼミ制度を導入し、学年の全教員で「総合知の獲得」を目指す教育活動を展開する。1・3年生の「総合的な探究の時間」についても、全担当教員の知見や先進校の事例を取り入れながら、生徒の将来に接続する教育活動を目指す。これらの取組は「探究推進専門委員会」から教科会にも伝達し、各教科における探究型の教育活動(以下「探究型授業」とする)の機運の向上に繋げる。 (2) SSH・あいちLS事業の成果を、本校生徒を対象に普及させる場を設ける。また、事業実施時の写真や参加生徒の声を、ホームページを活用し、保護者や地域に向けて積極的に発信する。	(1) 「総合的な探究の時間」や各教科の探究型授業を通して、生徒の認識がどのように変容したか。また、教員の認識がどのように変容したか。 (2) SSH・あいちLS事業について、生徒や職員、保護者はどのように捉えているか。 (1・2ともに学校評価アンケート及びSSH意識調査の結果から評価する)
中高連携部	今年度から始まる中高一貫校が円滑に進むように、中学と高校間の連携を密に取るようにする。	(1) 中学職員室と高校職員室を行き来し、情報交換を密に行う。 (2) 中学・高校合同の行事に関わり、連携をとるようにする。 (3) 学年ペア活動(中1と高3)を企画し、生徒間の交流を図るよう促す。	(1) 毎日必ず中学、高校の職員室に行き、連携を図れているかどうか。 (2) 中学・高校の合同行事が円滑に進んでいるかどうか。 (3) 学年ペア活動を各期に最低2回は実施できたかどうか。
研究部	高校と中学が互いの授業展開のよさを知り、それぞれの教員が学び合い、支え合えるような「居場所づくり・絆づくり」を行う。	(1) 目的はお互いの「評価」ではなくお互いの「理解・気づき」である。授業の中で生徒一人ひとりを大切にしたらどこかを見つけたら、考えを交流できるようにする。 (2) 学びの土台である生徒が自分の考えを率直に発言できるような学習規律のよさや、堂々と考えを示せたりする関わり合いの場のよさを授業の中で見つけ、互いに伝えられるようにする。 (3) 振り返りの在り方は、道徳教育や総合的な学習の時間も含めて、見合う場を通しての一言感想を伝える。	(1) 机間指導や巡回における声かけの中で、生徒に寄り添い、学びを支えることができたか。 (2) グループの話し合いは、何について話し合うのか、目的を明確にして活動を開始できたか。 (3) 道徳教育では、今日の学びで何がわかったのか、板書を振り返るなどしておさえられたか。
中1年	「自考自励」の精神に基づき、IBの10の学習者像を指針として、自律的に学び自己を形成する学習者の育成	(1) 「探究する人」「考える人」を目ざし、既成概念にとらわれず、日々の学習や生活の中で「なぜ」を問い直し、論理的に解決策を導き出す習慣を身につけさせる。 (2) 「振り返りができる人」「信念を持つ人」を目ざし、学問的誠実性を遵守し、自らの行動や学業成果を客観的に省察することで、自身の成長課題を明確にさせる。 (3) 「コミュニケーションができる人」「思いやりのある人」を目ざし、多様な意見を尊重し、建設的な対話を通じて集団の中での自分の役割を果たし、社会や他者に貢献させる。	(1) 学習や行事の振り返りに関して、自ら立てた「探究の問い」とそれに対する「自分なりの結論」を、8割以上の生徒が論理的に記述できている。 (2) やむを得ない場合以外の遅刻欠席、総括的評価課題における学問的誠実性の違反件数が極めて少ない。 (3) 学期ごとのキャリアパスポートにおいて、「他者の意見を尊重し、建設的な協働ができた」と回答する生徒が8割以上である。
高1年	高い志をもち、すべてに挑戦できる生徒の育成。	～コンフォートゾーンから抜け出す～ (1) 予習・復習が当たり前の生活リズムの確立。 (2) 横や縦の繋がりを大切にし、自ら積極的に多くの人と関わる。 (3) 他人の評価などで自分の限界を決めず、受験という手段をもとに高い進路目標を掲げる。	(1) 結果として、学習時間が週25時間を超えている。 (2) 気持ちのよい挨拶が飛び交い、クラスや学年の風通しが良い。 (3) 本校内での順位や偏差値に左右されずに進路目標を定めている。
高2年	時習館高校の中核としての自覚と自律心を持ち、自考自励に挑戦する集団を育成する。	指示・課題を減らし提案を増やす ～自考自励を促す～ (1) 難関国公立大学を目指す意義を理解させ、自身が行くべき大学を考えさせる。 (2) 無用の遅刻欠席をさせない、挨拶の励行、清掃の徹底等、基本的な生活習慣を定着させ、信頼できる大人にさせる。 (3) 学習と行事に一生懸命取り組む。	(1) 進路希望調査において、難関国公立大学を志望する生徒が一定数以上いる。 (2) 無用の遅刻欠席が0、活発な挨拶、清潔な学習環境である。 (3) 8割の生徒が家庭学習週25時間を達成しており、かつ行事にエネルギーを注ぐことができているか。
高3年	時習館高校の最高学年としての自覚をもち、進路目標の実現に向けて、高い志と強い意志で取り組むことができる集団の育成を目指す。	(1) 学年集会等を通して、高校最終学年としての役割や責任(学校の雰囲気づくり・後輩の模範)を明確にし、共通理解を図る。 (2) 進路行事や卒業生の事例紹介を活用し、高い志を持ち続ける動機付けを行う。授業を大切にする指導を心がけ、学力中位層の引き上げ、上位層・下位層へのフォローを実施する。学力中位層の底上げを主軸に、補習・課題・小テスト等を計画的に実施するとともに、上位層・下位層それぞれに応じた声かけや学習支援を行い、学年全体の学力向上を図る。	(1) 礼節、時間、清掃などの生活における基礎力を確立・維持できたか。 (2) 高い志と目標に向かう強い意志をもって、安易に妥協せず粘り強く努力できたか。